

# 社会科学学習指導案

第4学年  
指導者

○名  
□□□□□

## 1 単元名 自然災害にそなえるまちづくり

### 2 単元設定の理由

(1) 児童の実態と培いたい資質・能力について

○○町は、これまで何度も大きな津波に襲われ、今後起こるであろう南海地震についても町をあげて対策や注意喚起を行っている。学校でも、毎朝「心の構え3原則」として、津波への心構えを唱えたり、何度も高台への避難訓練を行ったりしている。しかし、児童にとっては、どうしても人ごとになりがちで、自分自身の生活とつなげて考えることはできていないように思われる。

本単元では、○○町や関係機関、地域の人々の取り組みや過去の地震津波災害を調べることを通して、地震津波災害から地域の安全を守るために様々な取り組みがあることや、関連機関や人々の協力体制があることを理解させたい。そして、そのような取り組みを自分達の生活と結びつけ、どのように災害に備えていけばよいかを一人ひとりが自分のこととして考え、判断し、表現できるようにしたい。

(2) 教材について

本単元では、「自然災害にそなえるまちづくり」として、地震津波災害への備えを取り上げて学習する。鞆浦地区にある「大岩慶長碑」には、1605年12月に約30mの津波が7度来て、百余人の被害者が出たと記されている。また「大岩宝永碑」には、1707年10月に大地震が起こったが、津波を避ける行動をしたために、鞆浦では人的被害が無く、津波に備えることの大切さが記されている。海部地区での津波被害の歴史と過去から現在へと続く人々の防災への思いが心に届くようにしたい。

本時は、単元の導入の時間である。自然災害は、自分達の生活にとって忘れてはいけない課題であることを再認識し、地震津波災害への備えについて主体的に学習していくきっかけになればと考えている。

### 3 単元の目標

- 地震津波災害から地域の安全を守るための諸活動について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けることができる。
- 地震津波災害から地域の安全を守るための諸活動の特色や関連機関や人々の協力を捉え、そうした取り組みの意味を考え、地域の課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力や、考えたことを表現する力を身に付けることができる。
- 地震津波災害から地域の安全を守るための諸活動について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を身に付けるとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を持つことができる。

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の関係機関や人々は、自然災害に対し様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し様々な備えをしていることを理解している。</li> <li>○調査活動や具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現している。</li> <li>○地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</li> <li>○学習したことをもとに地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとしている。</li> </ul>

### 5 指導計画（全11時間）

層	段階	主な学習活動
I 問題 把握	(1)問題をつかむ	①自然災害について話し合い、自分達の地域で起こりやすい災害について考える。  《本時 1/11》
	(2)予想をたてる	②地震災害や津波災害とそれらに対する備えについて話し合い、学習計画をたてる。
	(3)調べ方をきめる	学習問題 地震や津波にそなえるためには、どのような取り組みが大切なのだろう。

II 意味把握	(4)調べたしかめる	③〇〇町役場へ行き、町や県、その他の関係機関の働き、災害発生時の情報収集と発信、日頃の情報提供について話を聞く。 ④調べたことを図にまとめる。 ⑤地域の避難施設や防災設備について話を聞き、調べる。 ⑥南部防災館を見学し、過去に起こった地震災害について調べる。 ⑦〇の大岩の碑等を見学し、地域の方に〇〇地区での過去の津波災害について話を聞き、調べる。 ⑧地域や家庭での自主防災の取り組みについて調べる。
	(5)みんなで考え話し合う	⑨避難訓練等、災害時に確実に身を守るために大切なことについて考える。
III 発展	(6)ひろげ深める	⑩⑪調べてきたことを振り返り、自分の考えをまとめる。

## 6 本時

### (1) 目標

各地で起こる様々な自然災害に目を向け、自分達の生活と結びつけて海部地域で備えておくことが大切な災害について自分の考えをもつことができる。

### (2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における具体の評価規準（評価方法）
	「地震や津波にそなえるためには、どのような取り組みが大切なのだろう。」 〇〇地区では、どのような自然災害について備えておくことが大切だろう。		
	1 自然災害の様子を伝える写真を見て、写真から分かることを発表する。 地震・津波 火山の噴火 大雨・台風 大雪	○タブレットを利用し、写真に書き込んで、発表できるようにする。	
	2 自然災害について、写真以外に知っていることや見聞きしたことを発表する。	○今までの経験や生活の中に関係する物事がないかを意識できるようにする。	
	3 〇〇地区では、どのような自然災害について備えていくことが大切なのかを話し合う。	○理由も付けて自分の考えをタブレットに記入し、グループで話し合っって考えをまとめられるようにする。 ・地図 ・事前アンケート	【思・判・表】 自分達の暮らしと自然災害との関わりについて考え、表現している。 (メモ・発言)
	4 本時の学習を振り返る。	○振り返りの例を示し、自分の考えを表現できるようにする。	

### (3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	自分達のこれからの意識し、根拠をはっきりとをもって自分達の暮らしと自然災害との関わりについて考え、表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	災害について見聞きしたこと、海部地区の地形の特徴や自分達の生活等を意識できるようにする。